

木皮成 ダンスワークショップ

「誰でも“踊れる”!! “作れる!?” HIP HOP」

ヒップホップ



木皮成 [きがわ・せい]

1990年、和歌山県生まれ。振付師。製作チーム DE PAY'S MAN 主宰。演劇・映像・アイドル振付師などボーダレスな活動を展開。また海外事業に興味を持ち、2010年からアジア舞台芸術祭(現・アジア舞台芸術人材育成部門)に継続参加、2015年にはカンボジア・シムリアップに滞在する。約70人の演劇人が参加するストリートダンスサークル DAP TOKYOの企画・創設。多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科非常勤講師。たらみゼリーCM、ソニー損保CM、TOKYO HEALTH CLUB、アフロパーカーMVなど振付他、Right-on CM 出演。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT では、昨年 PLAT アートスペースで上演した「木ノ下歌舞伎『勳進帳』」や来年3月に PLAT 主ホールにて上演予定の「市民と創造する演劇『とよはしの街の物語2 (仮)』」で振付を務める木皮成さんを講師に招き、劇場の外に飛び出し、各々が街から見つけてきた要素を元にオリジナルのHIPHOP ダンスを作るワークショップを開催します。ダンス未経験の方でも構いません。ご応募お待ちしております。

2017年11月17日 [金] 18:30~21:30

□場所=穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース □受講料=500円

□講師=木皮成(振付師) □講師アシスタント=根本和歌菜(ダンサー)

街のHIP HOPを見つけて踊ろう!

みなさんはHIP HOPって聞くとどういうイメージを持ちますか? 「なんとなくはわかるけど、ラップしたり、ダボダボのファッションを着たり、路上でダンスしたりする」なんてイメージが強かったりしますでしょうか。もしくはダンススタジオに通って習っているなんて人もいるのかもしれない。僕もHIP HOPを始めたときはすごくなんだか怖そうな人たちの文化なんだってイメージを持っていました。でもそれ以上に「こういう表現ができればカッコいいな」なんて思ったりして、僕も最初は大学の先輩にダンスを教えてもらっていました。いざ始めてみたら怖くてカッコいいだけがHIP HOPの価値観じゃなくて、素直に面白かったんです。HIP HOPって実は意外と街に溢れているものだったりします。今回は僕がみなさんにHIP HOPってどういうものなのか体験してもらいつつ、街に出てみなさんにHIP HOPを探してもらおうと思います。いざやってみると今までのイメージが変わるかもしれません。結構、面白いですよ。 —木皮成—

応募条件

□対象:小学生以上のダンスに興味のある人。経験不問

□募集人数=20名(応募多数の場合は選考)

参加者募集

応募方法

■締切:11月6日[月]17:00必着 ※参加の可否については、11月10日までにご連絡します。

■申込:オンライン:劇場ホームページの専用申込フォームより必要事項を記入して送信してください。

窓口・FAX:参加申込書に、必要事項を記入の上、プラット一階窓口またはFax(0532-55-8192)

お問合せ

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

TEL 0532-39-8810 FAX 0532-55-8192

□主催=公益財団法人豊橋文化振興財団 □後援=豊橋市

応募開始
10月1日
より

